

CASBEE® 名古屋

評価結果

■ 使用評価マニュアル: CASBEE 建築環境総合性能評価システムマニュアル2016 (使用評価ソフト: CASBEE_Nagoya_2016(v3.0))

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)ケーズデンキ千種竹越店 新築工事	階数	地上2F
建設地	名古屋市千種区京命一丁目1005、1010-1、1014-1、1014-2、1014-3、1016	構造	S造
用途地域	第二種住居地域、準防火地域	平均居住人員	50 人
地域区分	6地域	年間使用時間	3,650 時間/年(想定値)
建物用途	物販店	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2023年7月 予定	評価の実施日	2022年10月13日
敷地面積	5,720 m ²	作成者	
建築面積	3,956 m ²	確認日	2022年10月14日
延床面積	7,584 m ²	確認者	



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)	2-2 ライフサイクルCO ₂ (温暖化影響チャート)	2-3 大項目の評価(レーダーチャート)
= BEE0.7 ★★★★★★☆☆☆☆ ☆: S: ★★★★★★ A: ★★★★★★ B+: ★★★★★★ B: ★★★★★★ C: ★★★★★★ 環境品質 G 環境負荷 L	☆☆☆☆ 100%超 ☆☆☆ 100% ☆☆☆☆ 80% ☆☆☆☆☆ 60% ☆☆☆☆☆ 30% 標準計算 ①参照値 ②建築物の取組み ③上記+②以外の ④上記+ このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです	

2-4 中項目の評価(バーチャート)	Q のスコア = 2.5		
Q 環境品質 Q1 室内環境 Q1のスコア= 2.7 音環境 2.6 温熱環境 2.2 光・視環境 3.0 空気質環境 3.5 Q2 サービス性能 Q2のスコア= 2.9 機能性 2.7 耐用性 2.7 対応性 3.5 Q3 室外環境(敷地内) Q3のスコア= 1.7 生物環境 1.0 まちなみ 2.0 地域性 2.0	LR のスコア = 3.0 LR1 エネルギー LR1のスコア= 3.2 建物外皮の 3.0 自然エネ 3.0 設備システ 3.4 効率的 3.0 LR2 資源・マテリアル LR2のスコア= 3.2 水資源 3.0 非再生材料の 3.1 汚染物質 3.8 LR3 敷地外環境 LR3のスコア= 2.7 地球温暖化 3.7 地域環境 2.5 周辺環境 2.1		

3 設計上の配慮事項	その他	
総合 環境に配慮しつつ土地を有効的に利用できるように計画をしている。		
Q1 室内環境 外壁: 20年、内装 10年、配線・設備等: 10年の耐用年数を目標としている。	Q2 サービス性能 給排水・衛生の配管区分を図っている。バリアフリー法の移動円滑化基準を遵守。天井高さを3.99mとし、ゆとりをもたせている。	Q3 室外環境(敷地内) 建築物エネルギー消費性能確保の基準を満たしている。
LR1 エネルギー 省エネルギー法の判断基準内で熱負荷を抑制 省エネルギー法の判断基準内で設備システムを効率化。	LR2 資源・マテリアル 節水タイプの大便器を使用。シックハウスに基づき、使用材料・接着剤などはF☆☆☆☆のものを使用する。また、消火剤・断熱剤・冷媒等は環境に配慮したものを使用。	LR3 敷地外環境 特になし。

■ CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)

■ Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)

■ 「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと■ 評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

重点項目スコア・結果シート

(仮称)ケースデンキ千種竹越店 新築工事

■使用評価マニュアル:

CASBEE-建築(新築)2016年版、名古屋市建築物環境配慮制度運用マニュアル2

■評価ソフト:

CASBEE_Nagoya_2016(v3.0)

重点項目		評価	全体に対する 重み係数	重点項目 スコア
1. 温暖化対策				3.2
LR1	エネルギー	3.2	0.4	
LR3.1	地球温暖化への配慮	3.7	0.1	
LR3.2.2	温熱環境悪化の改善	2.0	0.05	
2. 自然共生				1.3
Q3.1	生物環境の保全と創出	1.0	0.09	
Q3.3.1	地域性への配慮、快適性の向上	無	0.009	
Q3.2	まちなみ・景観への配慮			
Q3.3.2	敷地内温熱環境の向上			
3. 循環型社会				3.1
LR2.1	水資源保護	3.0	0.06	
LR2.2	非再生性資源の使用量削減	3.1	0.18	
LR3.2.3	地域インフラへの負荷抑制 ※2	3.0	0.01875	

結果

1. 温暖化対策

評価点 = 3.2



2. 自然共生

評価点 = 1.3



3. 循環型社会

評価点 = 3.1



重点項目のスコアは以下のように算出している。

$$\text{重点項目スコア} = \frac{(\text{評価点} \times \text{全体に対する重み}) \text{の総和}}{\text{全体に対する重みの総和}}$$

※1 ここでは、Q3. 3. 1の評価する取組みのうち評価項目 1 2) 地域性のある材料の使用 又は、Q3. 2において評価する取組みのうち評価項目 4) 地域性のある素材による良好な景観形成 のいずれかでポイントがある場合は「有」、ない場合は「無」を評価とした。重点項目スコアの算出における評価点は評価「有」の場合は5、「無」の場合は1とし、重みはQ3. 3. 1の全体に対する重みに0. 2を乗じたものとしている。

※2 ここでは、LR3. 2. 3のうち、LR3. 2. 3. 3 交通負荷抑制 を除いたもので評価点及び全体に対する重み係数を算出している。したがって、ここでの評価点はスコアシートにおけるLR3. 2. 3の評価点とは異なるものである。